

Hill Alliance Church は、生バンドで現代的な賛美歌を歌い、牧師の説教はパワーポイントで教壇上部のディスプレイに映し出された。



考えてみれば、これは当然で、我々の訪ねたのはプロテスタント教会なのだ。全国民の 85% がキリスト教徒、そのうちプロテスタントは 60%、カトリックは 25% という資料もある。J.F.Kennedy を除いては、米国大統領は歴代プロテスタント。現在では 200 を越えるプロテスタント諸派 (denominations) があり、それぞれが様々な社会階層に支持されている。

この教会はどんな宗派なのか？ とホストファミリーに尋ねた。すると、'evangelical' とか 'alliance' という答えが返ってきた。前者は初めて耳にする言葉。一体・・・？ 調べてみると、「神の言葉を積極的に伝道しようとする『福音主義』を説く人々」。これが宗派を越えて、横のつながりを持ちながら、米国社会に根強く存在しているのだ。

60 年代に巻き起こった若者のカウンターカルチャーは、"Hippie/Drug/Free Sex" を合言葉としたが、夢の実現に失敗。結果、彼らはエスタブリッシュメントに組み込まれていく。その反動で宗教的な保守化が起こった。主流派とされるメソジストやルター派教会などのリベラル諸派に対し、南部バプティスト協議会 (SBC) に代表される「保守的」で「ファンダメンタリスト」と呼ばれる諸派が、米国社会において影響力・発言権を強めていく。そのほとんどが evangelical だ。こうした「宗教右派」を無視して、政治家は選挙で得票できない。

従って、政教分離を説きながらも、米国には evangelical で fundamentalist 系の政治家が多く存在する。カーターしかり、クリントンやゴア元副大統領も例外ではない。複雑な宗教国家アメリカの顔は、同時に、複雑な政治利権の国アメリカに変貌して見える。

ukusa & Furoshiki 袱紗と風呂敷

F シカゴ美術館には、著名な芸術家たちの絵画・彫刻など、数多くの芸術品が収蔵されている。その地下ギャラリー 57 ~ 59 室に密かに(?) 公開されていたのが「袱紗 (ふくさ) と風呂敷」の展示であった。西洋の『鞆の文化』に対して、日本の『風呂敷の文化』という比較はよく聞く。包む物の素材や大小・形態にかかわらず、柔軟に対処できる東洋的思考の産物。こうして Ralph & Mary Hays が収集した江戸時代からの膨大なコレクションに、改めて日本文化を意識させられた。



文化としての 'furoshiki' の本質は、織物とかタペストリーとしての側面を捉えた評価以上に深い。その包み方も、対象が立方体・直方体・球形・瓶 1 本或いは 2 本・複数の物を取りまとめたり、重い物を包んだり、と多彩。意匠やデザイン・染色の技。そればかりではない。包んだ贈答品を主人側に贈る際の作法が、人のしぐさを美しく見せもする。しかもコンパクトで環境に優しい。だが、50 年代の鞆や紙袋、そして 70 年代のビニール袋の登場で、日本文化のシーンから姿を消さんばかり。それが悔しい。

old Rush 【góuld rʌʃ】 ゴールド・ラッシュ

G 岐阜県の六厩 (むまや) で砂金取りをしたことがある。慎重に川に降り立つ。スコップで河床の砂礫をすくい上げ、これを中華鍋に入れる。大中の小石を取り除き、静かにパンニング。比重の軽い砂が鍋の外側に飛び出し、比較的比重の高い粒が鍋に残留する。それをしっかり検分する。水流の速い所